

平成28年度

不登校児童・生徒図書館等活用推進事業

「公立図書館活用支援事業」

不登校対策支援
図書館活用ハンドブック

大分県立図書館
大分県教育センター

はじめに

平成15年5月、文部科学省より各都道府県教育委員会に対し「不登校への対応の在り方について」指導通知が出されている。

この通知の「学校外の公的機関の整備充実及び活用」の中で「社会教育施設の体験活動プログラムの積極的な活用」として、「社会教育施設では、都市部の教育支援センターや小規模な教育支援センターでは提供しにくい野外体験活動プログラム等が実施されている場合が多いため、これらの体験活動プログラム等を実施する社会教育施設との積極的な連携が望まれること」とある。

また、平成18年3月に、これからの図書館の在り方検討協力者会議（平成17年4月文部科学省生涯学習政策局長決定）から「これからの図書館像」について報告がなされ、「これからの図書館サービスに求められる新たな視点」として「児童・青少年サービスの充実」の中で「不登校などの問題を抱えた青少年に対しても、地域全体の取組の中で図書館として必要な支援を行っていく必要がある。」と提言されている。

これらの通知や提言を踏まえ、大分県教育センターと大分県立図書館は連携し、平成25年度から適応指導教室「ポランの広場」の図書館活動をスタートした。

図書館は、多くの様々な年代の利用者が訪れ、社会との接点となる一方で、人と人との適度な距離感を保つことのできる場でもある。

さらに、読書や調べ学習、読み聞かせ等の様々な体験を通して自己肯定感や学習意欲を高める場としても期待されている。

これまで4年間の「ポランの広場」における取組をとおして、様々な理由で学校に通うことができない子どもが行ってきた図書館活動プログラムを広く紹介し、市町村における同様の取組の推進に繋がっていくことを願っている。

目 次

はじめに	1
目 次	2
I 大分県の不登校児童・生徒の状況（平成27年度値）	3
II 県におけるモデル的取組（平成25年度～）	
III 県内市町村への取組拡大（平成28年度～）	
IV 県教育センターと県立図書館の連携による取組	4
1 県教育センターの現状（～平成24年度）	
2 図書館活動の有効性	
3 図書館活動プログラム	5
① 図書館活動の様子	
② 出会いの活動：初回バックヤードツアー	
③ キャリア教育を柱とした活動	6
【職業体験】	
【読み聞かせ】	
【図書館でのボランティア活動】	
④ 公共交通機関の利用	9
V 成果と課題	10
VI 図書館活動を通して	11

このハンドブックを利用される方へ

○このハンドブックは平成25年から平成28年の4年間、大分県教育センター教育相談部「ポランの広場」と大分県立図書館が連携し取り組んだ図書館活動の実践をもとに作成しています。

○このハンドブックのデータ（PDF ファイル）は、大分県立図書館ホームページに掲載していますのでご活用下さい。

大分県立図書館ホームページ

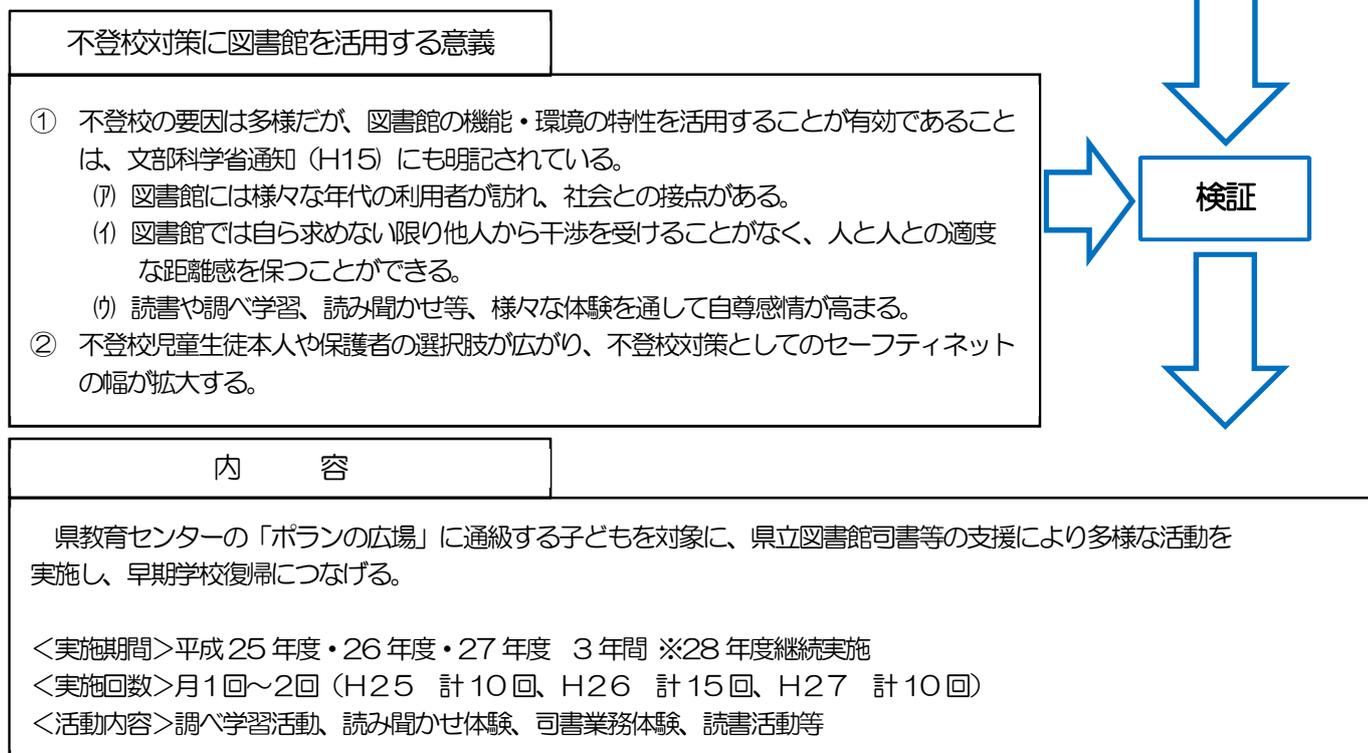
<https://www.oita-library.jp/>

I 大分県の不登校児童・生徒の状況（H27年度値）

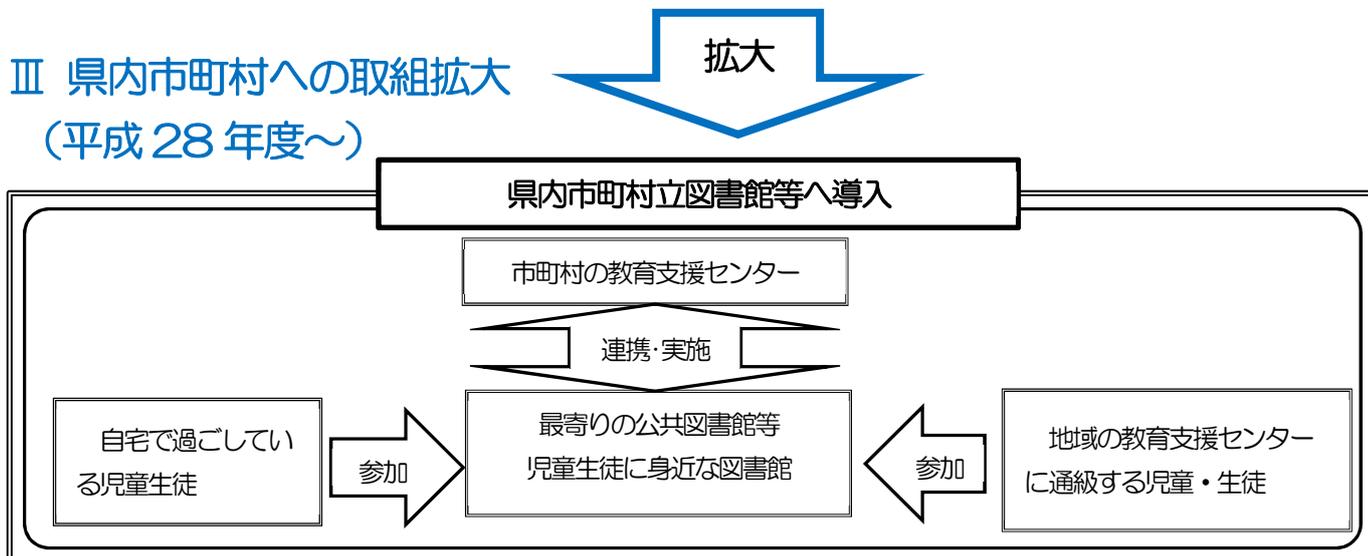
- ① 小・中学校の児童・生徒 1,000 人当たりの不登校人数が全国平均を上回り、依然として高止まりが続いている。
- ② 市町村の教育支援センターに通級する不登校児童・生徒は全体の 24%と低い。
- ③ 不登校児童・生徒に対し、全県的に早急かつ効果的な対応が必要。

H27年度 大分県内の不登校児童・生徒数 1,185人（小学生308人・中学生877人）		
「自宅で過ごす」：76% 901人（小学生248人・中学生653人）	「教育支援センターに通級する」：24% 284人（小学生60人・中学生224人）	
	市町村15施設 (277人)	県1施設 県教育センター（7人）

II 県におけるモデル的取組（平成25年度～）



III 県内市町村への取組拡大（平成28年度～）



IV 県教育センターと県立図書館の連携による取組

1 県教育センターの現状（～平成24年度）

県教育センター教育相談部 適応指導教室「ポランの広場」（以下「ポランの広場」）に通級する子どもは、友だちとの関係につまずき、悩んだり自信を無くしたりしている子どもが多く、自己肯定感や自己有用感が低い。また、外出することが減り家庭での生活が中心となり、社会性を育む機会が少ない傾向にあった。

「ポランの広場」では、自己肯定感や自己有用感、社会性を育む活動を年間を通して行っていたが、センター内で行う活動が中心となるため外部の人々と交流する機会は少なく、より幅広い活動や交流によって社会性を育むことがそれまでの課題であった。

2 図書館活動の有効性

こうした課題に対して、県教育センターと県立図書館は、冒頭の「はじめに」で述べた、図書館における機能と環境を生かした図書館活動が、一定の課題解消に繋がるのではないかとこの共通認識に立った。

こうしたことから、県立図書館を社会との接点として活用し、学校復帰や社会的自立の第一歩となるよう自己肯定感や自己有用感、学習意欲を高めることを目的として平成25年度から「ポランの広場」の図書館活動をスタートした。

初年度は、施設見学や興味のある本の貸出、図書館主催行事への参加等の活動を行い、2年目以降はキャリア教育を活動の柱として、年間10～15回の活動を行っている。

国立教育政策研究所は、これからのキャリア教育について「大人が語り、子どもに語らせ、子ども達に語り合わせる」ことが大切であるとしている。これを踏まえ、図書館活動では、そこで働く人々の職業観や働くことへの思い等について話を聴き、子どもが自らの進路や将来の職業について考えを整理し語ることで、未来の自分について思いを深めることに繋げている。さらに、活動を通して子ども同士の関わりも積み重ねることで、互いの思いや考えを尊重する態度を育むことも期待される。

3 図書館活動プログラム

① 図書館活動の様子

図書館活動をするにあたり、キャリア教育を活動の柱として、活動の見通しや人と関わる安心感をもたせながら「自己理解」「自信」「自己有用感」「進路・将来」をねらいに年10回の活動を計画した。(表1)

ここでは、平成28年度の年間計画をもとに、これまでの活動を紹介します。

【表1：平成28年度の活動内容】 ●はその活動の主なねらい

No.	毎回		安心感	自己理解	自信回復	有用感	進路・将来
		事前学習	●				
		目標・感想発表			●	○	○
1	5月	バックヤードツアー	●				
2	6月	職業講話		○			●
3	7月	七夕飾り			○	●	
4	8月	職業調べ①、学習活動		●			●
5	8月	職業調べ②、学習活動			○		●
6	9月	職業調べ発表会			●	○	●
7	11月	読み聞かせ講習	○		●		
8	12月	読み聞かせ発表会			○	●	●
9	1月	職場体験学習		○		●	●
10	2月	図書館内での仕事			○	●	●
		お別れの会	○		●	●	

② 出合いの活動：初回バックヤードツアー

年度初回の活動日は図書館の休館日に設定し、周囲から見られることへの子どもたちの不安を軽減できるよう配慮している。

図書館職員のご案内で書庫や整理作業室等、通常見ることのできない箇所を見学する活動は、「図書館に出会い、人と出会う」ことを目標としている。

毎年この出合いから図書館活動がスタートする。

③ キャリア教育を柱とした活動

【職業体験】

職業講話

自分の進路や将来、職業について具体的に考えるきっかけとして、図書館司書や社会教育主事等、図書館で働く職員から話を聴く「職業講話」を実施した。

「大学を卒業するとき今の職を考えるようになった(司書)」「子どものころから宇宙に興味があった(社会教育主事)」といった話を聴いた子どもは、自分の興味関心のある職業を具体的にイメージする活動にも取り組んだ。



調べ学習

職業講話で働くことに対する意識を高めた後、自分が目指している職業や興味・関心のある仕事をひとつ選び、図書館の本や資料を用いて詳しく調べた。

はじめは勤務時間や収入に興味を持っていた子どもは、講話を聞くことによりあらためて、その仕事のやりがいや苦労にも目を向けるようになり調べ学習を進めた。

調べ学習発表会

調べたことをもとに図書館で発表会を開催し、図書館職員も参加した。職員からの賞賛や労い、励まし等を受けた子どもは、発表前の緊張した面持ちから一変し柔らかな表情となっていたのが印象的であった。



職場体験

調べ学習をして仕事のやりがいや苦労について考え学んだ子どもは、図書館で実際に職業体験を行った。返却された本の汚れを落とすクリーニング作業や書棚に返す配架作業に取り組んだ。最初は戸惑いながら作業を行ったが、量をこなすにつれテキパキと作業ができるようになった。また、自発的に取り組む様子も見られた。



【読み聞かせ活動】

図書館司書による読み聞かせ講習会

人前で発言することや発表することへの自信をもたせることをねらいとして、絵本の読み聞かせに取り組み、練習の成果を発表する場として図書館職員の前で発表会を行うことを企画した。

まず、図書館司書に講師を依頼し、読み聞かせの講習会を行った。話し方や話す速さだけでなく、本の持ち方やページめくり方等、図書館司書から実演を交え説明を受けることで、読み聞かせの仕方を分かりやすく理解させることができた。



「ポランの広場」での練習・リハーサル

講習会の後、自分が読んでみたい絵本を選び、「ポランの広場」の学習活動で読み聞かせの練習を行った。実演を交えた説明を事前に受けたことで、子どもは読み聞かせのコツをイメージしやすく、本の持ち方や話し方を互いに見合っただけで練習を重ねていった。図書館での発表会のリハーサルを兼ねて、教育センター所員の前でも読み聞かせ発表会を実施し、所員がそのよさや工夫しているところを感想として述べた。感想を聴いていた子どもの表情から読み聞かせへの自信が深まった様子がうかがえ、図書館での発表会へとつながる一歩となった。

図書館での読み聞かせ発表会

県立図書館で「絵本の読み聞かせ発表会」を実施した。事前に作成した、当日の進行プログラムに沿って、子ども自ら司会進行を行い3人が発表を行った。

一人目は「いそがしいよる」、二人目は「ガラスめだまときんのつののヤギ」、三人目は「くまのコールテンくん」を発表した。

教育センターでのリハーサル等を行ってきたことで自信をもって発表する様子うかがえた。

また、図書館職員から「絵本の世界に引き込まれた」等の感想を受け、子ども達は読み聞かせをすることで、人の心を温かくできることを実感し自信をつけた様子うかがえた。今後はこの発表をもとに、保育園等でも読み聞かせができるようにつなげていき、子どもの自己肯定感や自己有用感を更に高めたい。



図書館でのボランティア活動

県立図書館子ども室飾り付け（七夕飾り）

県立図書館の一角には「子ども室」があり、様々なジャンルの児童書が取り揃えられ、中学生までの子どもが頻繁に利用している。その子ども室に、季節が感じられる七夕飾りを作成し、飾り付ける活動を行った。

大きな作品となるため、パーツを作る役やレイアウトを考える役等分担して取り組み、切り分け方や飾り方にそれぞれ工夫をこらし、ひとつの作品が出来上がった。

作品は子ども室の壁面に掲示され、7月の掲示期間中に多くの図書館利用者に見てもらおうことができた。

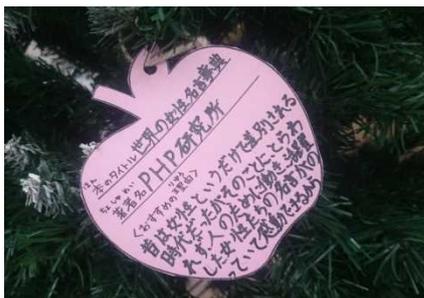
この活動は、同世代の子どもが利用する場所に自分達の作品が飾られる達成感だけでなく、日頃は図書館職員が行う館内の飾り付けに貢献したという自己有用感をもたせる活動となった。



読書週間行事の準備

読書週間に県立図書館で行っている「ブックツリーを実らせよう！」の準備も子どもが行った。リンゴ型のカードに、本の書名やお薦めの理由などを書くもので、子どもが台紙から切り取り、色とりどりのカードを準備した。

また、子どももお薦め本をカードに記入しツリーに飾り付けリンゴがたくさん実った大きなツリーが完成した。



④ 公共交通機関の利用

県立図書館は教育センターから車で30分ほどの場所にあり、図書館活動を行う際は通常ジャンボタクシーを利用して往復している。

子どもは日頃保護者の車で外出することがほとんどで、列車やバスを利用する経験はとても少ない状況である。こうした子どもの実態から、運賃を自ら支払って交通機関を利用する経験を積ませて社会性を育てようと、公共交通機関を利用して行き来することを年間数回実施した。

列車に乗る際は時刻を事前に確認し、切符の買い方や乗り場の確認の仕方等を体験させた。またバスに乗る際にも、行き先の表示を見て乗車することや料金の支払い方等の経験を積ませた。あわせて、乗車中のマナーについても適宜知らせるようにして、社会性を育てている。



V 成果と課題

【成果】

友人と一緒に職場体験や図書館のボランティア活動に参加した子どもは「とてもきつかった」と言いながらも満面の笑顔になる。この時の表情や言葉からも、仲間とともに取り組む事の良さや達成感から自己有用感の向上につながった事が推察できる。参加した子どもの中には、図書館司書の仕事に興味をもち、司書について調べて発表し、進路選択の際「図書館司書を目指したい」との夢をもって高校に進学した者もいる。

キャリア教育の一環として職業調べや職場体験等の活動を行うことで、周りの人から褒められ、励まされ、認められる経験が積み重なり、子どもは自分自身に誇りと自信を持ち進路選択の意欲へとつながり、将来への夢と希望をもって高校へと進学していった。

図書館での活動は子どもの自己肯定感や自己有用感を高め、進路実現にもつながる有効な活動であった。

※県教育センター教育相談部「ポランの広場」に通級する子どもの学校復帰状況

平成25年度 通級する子どもの数8名（中学生2年生2名・3年生6名） →学校復帰した子どもの数8名（内6名高校へ進学）	復帰率100%
平成26年度 通級する子どもの数6名（中学生2年生3名・3年生3名） →学校復帰した子どもの数6名（内3名高校へ進学）	復帰率100%
平成27年度 通級する子どもの数7名（中学生2年生1名・3年生6名） →学校復帰した子どもの数7名（内6名高校へ進学）	復帰率100%

※復帰率は部分登校含む

【課題】

キャリア教育の視点で「大人が語り、子どもに語らせ、子ども達に語り合わせる」活動をより充実させるためには、今後、参加する子どもが「語り合う」場面を多く取り入れていく必要がある。

人との関わりや関係づくりに自信をなくし、これまで達成感を得る経験が少なかった子どもにとって「語り合う」事は、有効な活動のひとつであると考えます。

この活動を取り入れることで、他者の思いや考え方を知るとともに自分自身の思いや考え方を明確に整理し、他者へ伝える経験を通して社会性を育むことにつながる。

様々な図書館活動の経験から、子どもが自分と他者の違いに気づき、幅広い世代と認め合うコミュニケーションの重要性を理解するとともに、自分のペースでスキルの向上が図れるよう支援していくことが大切である。

VI 図書館活動を通して

大分県立図書館 学校・地域支援課

図書館は、従来のサービスに加え、高度化・多様化する利用者や住民の要望に対応するとともに、他の施設・団体等と連携や協働を積極的に推進し、特に子ども・若者への居場所の提供や、社会生活を円滑に営む上で課題や困難を解決し、学び直しや社会参画・職業的自立を支援する体制を構築する事が求められています。

さらに、社会教育施設として学校教育を支援することも重要とされており、子どもの読書活動や学習活動を推進する観点から、学校図書館への支援も積極的に行うことが求められています。

こうした中、県立図書館は生涯にわたる多様で自発的、継続的な学習要求にこたえるキーステーションとして「だれでも、いつでも、どこからでも」を基本方針として、あらゆる環境にある子どもの読書活動支援にも取り組んでいます。

その取組の一つとして、これまで4年間、県教育センターと連携し「ポランの広場」で学ぶ子どもの早期学校復帰や社会性の向上を育むことを支援するため、図書館司書を中心として様々な取組を行ってきました。

見学、調べ学習、職場体験、読み聞かせなどの支援は、けっして特別なことではなく、日常業務として行っています。不登校の子どものように悩みや困難を抱えた子どもに読書活動支援をすることは、図書館に勤務する者にとっても、児童サービスの資質向上に役立っています。年間をとおして子どもの変容や成長の姿を見ることができ、様々な環境の子どもへの読書支援をさらに充実させることもできています。また、調べ学習、読み聞かせ等の活動により直接子どもを指導する経験を積むことができました。

これまでの取組や実績が認められ、平成28年度から県内への普及を目的として県の新規事業がスタートしました。現在では県内の7市町村を対象に、同様の取組ができるように支援を実施しています。

今後も、新たな市町村を対象に支援を実施し、学校教育・社会教育の充実や発展に貢献できるよう、継続的な取組を実施していきます。

適応指導教室「ポランの広場」が県立図書館での図書館活動を開始して4年が経ちました。

1年間の活動を通して、最も変化を感じるのは子どもの表情です。

キャリア教育を柱とした活動で、子どもは職業について調べて発表することで「やればできる」というエネルギーが高まり、職場体験や読み聞かせ発表会で「人の役に立てる」と自信が芽生えます。活動を終えた子どもの顔は、緊張した表情が緩むだけでなく、そのまなざしから達成感と自信をもったことを感じます。

図書館活動は、その活動内容だけでなく図書館職員の方々とのふれあいも魅力です。人と関わることに不安を覚えがちな子ども達は、様々な活動で人と関わる嬉しさや喜び、自信を徐々に育みます。

年度の最終回には図書館の方々との「お別れの会」を毎年実施します。図書館の方々から「がんばったね」「高校に行っても図書館に時々来てね」等多くの労いや励ましの言葉をかけられ握手を交わす子ども姿に、一年前に見せた不安げな表情はもうありません。お別れの会は、子どもの成長を全員で喜び分かち合い、心が温くなるひとときです。柔らかな笑顔で応じる子どもの姿を見ていると、1年間の活動で得たエネルギーが子どもの心にしっかりと根付いていることが感じられます。

キャリア教育によって、子ども達は自分の職業や将来を見つめて互いにその思いを語り合い、育んだ自信や心のエネルギーを糧に共に前に歩み始めます。こうした県立図書館との連携した活動は、不登校で悩む子どもが自信や自己有用感を育み、他者との関わりのスキルも身につける大切な場となっています。

この4年間で積み重ねた実績や経験をもとに内容を更に充実させ、不登校で悩む子どもが自信をつけ未来に向けて歩み始めるよう、今後も図書館活動を継続していきたいと思っています。

平成28年度 不登校児童・生徒図書館等活用推進事業
「公立図書館活用支援事業」

不登校対策支援 図書館活用ハンドブック

平成29年3月 発行

編集・著 大分県立図書館
大分県教育センター

発行 大分県立図書館
〒870-0008 大分市王子西町 14 番 1 号
TEL097-546-9972(代表)